

令和4年度第1回千葉市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年5月20日（金） 15：40 ～ 16：35

2 場 所 第一会議室

3 出席者 （委員）

神谷市長、磯野教育長、小西委員（教育長職務代理者）、藤川委員、
竹田委員、高津委員、大山委員

（事務局）

市長部局：神崎総合政策局長、堺総合政策部長、江寺政策調整課長、
中臺雇用推進課長

教育委員会：宮本教育次長、香取教育総務部長、鶴岡学校教育部長、
伊藤学校教育部参事、山田総務課長、樋口教育指導課長、
内海生涯学習振興課長、土肥生涯学習振興課長補佐、
宮内教育支援課長補佐

4 議題

（1）第3次学校教育推進計画及び第6次生涯学習振興計画について

5 議事の概要

（1）第3次学校教育推進計画及び第6次生涯学習振興計画について

- ・第3次学校教育推進計画について、意見交換を行った。
- ・第6次生涯学習振興計画について、意見交換を行った。

6 会議経過

（1）挨拶

神谷市長

昨年度、議論した千葉市の教育に関する大綱を4月1日付けで公表しました。今年度は、教育大綱に基づいた具体的な取組みについて議論していきたいと思っております。

また、県内の公立学校として初めての中高等教育学校である稲毛国際中高等教育学校が開校しました。さらに子どもを性暴力から守るための体制が強化され、学校と教育委員会、弁護士とで役割分担をし、より安心して、子どもの支援に注力できる体制を整えていただきました。

来年4月に開校予定の公立夜間中学の設置についても、担当の先生方に精力的に取り組んでいただいております。教育委員と教育委員会事務局の尽力に深く感謝します。本日の議題は、学校教育推進計画と生涯学習推進計画ですが、いずれも今後10年間の取組みの方向性を示すものです。

今後の千葉市の教育行政の方向性について意見交換をしていきたいと思っております。また、教育大綱や基本計画との関係、取組みの方向性などについて、委員の皆様と活発な意見交換を行いたいと思っております。

磯野教育長

本日は教育委員会が現在策定作業中の第3次学校教育推進計画と第6次生涯学習推進計画について、協議の場を設けていただき感謝申し上げます。

両計画については、去る3月28日に開催した総合教育会議においても協議を行い、市長からは両計画が非常に重要な計画であるのご意見をいただいたところです。

今回は前回に引き続き、両計画について、市長と教育委員会とで、率直な意見交換をしていきたいと思っております。

(2) 第3次千葉市学校教育推進計画について

(説明要旨)

宮本教育次長

計画は6つの柱で構成されています。

1. 確かな学力の育成では、わかる授業の推進やICTを活用した授業改善に取り組みます。

2. 豊かな心の育成では、道徳教育の推進や国際教育の推進、体験学習の充実や職業体験学習、キャリア教育の充実に取り組みます。

3. 健やかな体の育成では、体力作り活動の取組みの充実、口腔衛生指導等に取り組みます。

4. 質の高い教職員では、校内外の研修の充実、学校における働き方改革プランによる改革の推進等に取り組みます。

5. 魅力ある教育環境では、少人数学級・少人数指導の充実、地域等関係者との連携体制の強化、学校総合防災マニュアルの改定、バリアフリーの環境の整備や情報モラル研修の充実に取り組みます。

6. 個別の支援が必要な児童生徒へのサポートでは、いじめ対応の校内研修のための要請訪問、スクールカウンセラー等の専門人材の配置の拡充、教育支援センター「ライトポート」の機能拡充、特別支援連携協議会の充実等に取り組みます。

市長部局との連携が特に必要な職場体験学習やキャリア教育の充実は、経済農政局との連携が重要と考えています。

今後の策定スケジュールとしては、6月以降、学校教育審議会や政策会議等を通して、計画案の検討を進め、9月にパブリックコメントを予定しています。

11月の学校教育審議会において答申をいただき、12月の教育委員会会議にて、計画策定の議決を行い、令和5年1月に完成及び公表の予定です。

(質疑応答)

藤川委員

キャリア教育の充実に関し、従前より、経済農政局と教育委員会とで連携しながら進めており、これまでの総合教育会議でも議論されてきました。

しかし、学校教育におけるキャリア教育の取組みは、コロナ禍において、体験的な学習が難しくなっていることもあり、少し弱く感じています。

経済関係の部署の協力のもと、各学校の中で企業が具体的な教育活動に関わることのできる体制づくりについて、もう一步踏み込んで、取組みを進めていただきたいと思います。

次に、質の高い教職員に関して、昨今、非常に教員が足りない状況や受験者が減っていることが問題になっています。私は教育学部で教鞭をとっていますが、学生の中での教育現場に出ることへの不安が大変強くなっています。

教職員の確保において、教育委員会だけではなく、財政措置も必要なため、市長部局の理解・協力が重要だと考えます。

特に働き方改革をしっかりと進めていくためにも、臨時的任用教員の比率を下げ、正規教員の比率を上げることが重要です。しかし、加配定数という枠があり、先々の見通しの不安定さや教職員の定年延長がある中、採用人数を抑えないと、将来、教員が過剰になってしまうという不安があるため、教育委員会では思い切った正規教員の増加を行うことができないと聞いています。

財政部局とよく検討し、ある程度の予算措置をとって、正規教員を少しでも増やし、教員の働く環境の改善を図ることが必要ではないかと思います。

現状では、年度途中で休む教員がいた場合、代わりの教員が見つからない状況にあります。

また、臨時的任用教員で若く経験の少ない方が1年限定の雇用条件のもとで学級担任を受け持っていたりと、苦勞しているという現状があります。そういう方は、教員採用試験の準備も満足にできず、受験すること自体が難しい状況に陥っていると聞いています。

臨時的任用教員の比率を少しでも減らすことが、学校教育を変えていくメッセージになりますので、ぜひ、正規教員の増加について、何ができるかを市長部局も協力し検討していただきたいと思います。

神谷市長

キャリア教育は、西千葉子ども起業塾の取組みが先行しており、12年間の実績をもとに、今年の講習も始まっています。引き続き、ぜひ続けていただきたいですが、学校教育の枠組みの中で、どのように取り組むのかを考えなければならないと思います。

また、市内の企業からは、学校教育の中で企業の取組みや仕事の中身を知ってほしい、一緒に考えていきたいという声を聞いています。

千葉市は非常に環境に恵まれており、様々な業界の方に学校教育の中に入ってもらい、知見を提供していただく素地があります。これまでの取組みをベースに、さらにどんな取組みができるのかについて、学校現場、教育委員会、市長部局で議論を重ねていく必要があります。

方向性はおそらく共有できています。残念ながらコロナ禍により、対面で話をする環境が2年程度損なわれてしまい、議論が進んでない側面がありますので、学校教育推進計画の中にもしっかりと明記し、取り組んでいくことが必要だと考えます。教育大綱にもその趣旨を盛り込みました。具体的にどんな点を、これからの児童生徒に伝えていくべきなのか、そのためにどんな方にどういうことについて、協力をもらうべきなのかという具体的な検討をしていきたいと、これまでも思っていたので、進めていきたいと思います。

教員の確保について、受験者の絶対数が非常に減少しており、確保自体が全国的に難しい状況になっていると聞いています。

勤務環境に対して、懸念を持つ学生がいることは否定できません。

そのため、魅力ある勤務環境を創り出し、児童生徒と向き合う時間をどう確保していくかを検討しなければいけません。

そのための1つの方法であるスクールサポートスタッフを単費で、全校に確保して

いますが、今の状況に対して、その場限りの対応に留まっている側面がありますので、構造的にどう対応していくかについて検討する必要があります。

市がどこまで単独でできるのかという問題と、制度そのものに限界があり、市の努力が及ばないところはあると思っています。

将来目指すべき姿を教育委員会と市長部局で共有しないといけませんが、そこには学校現場での実際の苦勞があつて初めて具体的に becoming くるものだと思います。

財政部局だけでは、こういった形にすべきということを提示することは難しいと思いますので、こうあるべきということや段階的にこうしていこうということについて、共有していく作業から始めていくべきだと感じました。

小西委員

学校教育の中でのキャリア教育の充実も大切ですが、出張授業の負担が教員側も企業側も大きいと聞いています。出張授業を1時間行うのは、企業側にとっても、準備が大変であり、ハードルが高いということです。

千葉市が行っている小学生向けの夏休みおしごと感動体験ワクワクワークデーは、すごく良い取り組みだと思います。

もう少し、中学生向けのレベルの高い企業リスト等を作り、学校教育現場の中だけではなく、市全体として、例えば、子どもたちや保護者の方から企業に申し込んで、専門職の話を聞いたりすることができるような場を、ぜひ連携して作っていただきたいと思っています。

神谷市長

例えば、西千葉子ども起業塾ですが、12年経ち、入門編や応用コースも出てきており、今までの経験の積み重ねで、カリキュラムがブラッシュアップされました。

感動体験は低学年向け体験企画ですので、見て、聞いてという話を中心でしたが、実際の接客を実際に体験するなど、ブラッシュアップ可能な面がありますので、接客の現場だけではなく、企業経営的な面で、何か会社の仕組みに触れられるような内容も考えられるかもしれません。

今までの経験を踏まえ、どのようにブラッシュアップできるのか、今後の方向性としてはありうると思います。

小西委員

体験先がサービス業ばかりになっていますので、子どもたちが、より広い職種の企業に触れることができるように、リストを作成していただきたいと思っています。

中臺雇用推進課長

企業の社会貢献意欲度を調査する中で、中学生向けのキャリア教育について、関心を調べるタイミングがあれば調査したいと考えています。何か供給してもらえるものがあるかどうか、今後探っていきます。

大山委員

個別の支援が必要な児童生徒のサポートについて、教育委員会ではライトポートや教育支援センターで不登校児童生徒の受入れをしています。学校に行くものの、そこでパニックになってしまう子どもたちのために、NPO法人千葉こども家庭支援センターが協力してくれています。

話を聞くと、窓口が教育委員会だけであり、病院局との連携が取れないとのこと。子どもたちの支援のためには病院局も手を貸していただきたいという話がありました。市長部局の協力もあれば助かると思います。

神谷市長

具体的には、病院局のこういった関わりを重視した意見でしたか。

大山委員

精神の専門の看護師と連携を図りたいということです。

神谷市長

具体的な機会をどのように設けられるか、考えていきたいと思っています。

高津委員

千葉市基本計画において、学びを支える教育の充実の取組み、その中では教員の働き方改革の推進を取り上げているほか、教育大綱でも働き方改革を推進しており、教員の本来の業務に専念できる環境を整え、先生方が子どもたちの中に入っていける時間を確保することが求められています。

現在、文部科学省のガイドラインにおいて、超過勤務は45時間以内となっていますが、大変厳しい状況です。一昨年と昨年はコロナ対応のため、行事の縮小等があり、やや超過勤務の時間が減っていますので、この経験も生かし、行事の削減を進めていただきたいと思います。

また、スクールサポートスタッフが令和3年度から全校配置になりました。

スクールサポートスタッフは、朝礼や行事の会議資料の印刷、とじ込み、教科の先生が作成するプリントの印刷、そして、チラシ等を学級のポストに人数分配するなど、大変な仕事をしていますが、今までは、こうした作業は先生方が行っており、小学校では子どもたちが帰った後でなければ作業ができない環境で、かなり厳しい状況でした。

アンケートでもスクールサポートスタッフは大変ありがたい、ぜひ続けて欲しいという結果となっています。コロナ禍が収まっても、ぜひこれを続けていただきたいと思います。

もう一つ、海外や県外での研修に参加する機会がなくなりました。

海外とは言いませんが、県外の教育行政が進んだ地域で研修することができたら、先生方のやる気はさらに出ると思います。

神谷市長

今年度の予算ではスクールサポートスタッフの全校配置が維持できるようになっています。

スクールサポートスタッフは、学校経営に不可欠な存在になってきていますが、その役割は当初、コロナ対策で増える業務を先生の代わりに行うものでした。その後、徐々に教職員が児童生徒と向き合う時間をしっかりと確保するためのサポート役に位置付けられてきました。

コロナ対策は続きますが、徐々に通常の学校での教育活動に戻っていく中で、ダブルトラックで対応しなければならないため、これから業務がもっと増えてしまうと思われま

す。今後、業務のあり方を整理し、効率的・効果的な業務を実現するには、どういう配置がベストなのか、教育委員会事務局に示していただきたいと思います。

スクールサポートスタッフを学校現場から無くすことは現実的ではありません。

教職員とどう連携し、どういう仕事が行われているのかについて、改めて整理する年にしていきたいと考えています。

教職員研修のあり方について、ICTを使った研修も可能です。様々な手法を研究していると思いますので、次の時代にふさわしい研修内容を議論したいと思います。

磯野教育長

スクールサポートスタッフについては、今後、検証していく中で、その成果について継続できるようにしていきたいと思っています。

その他、様々なスタッフがいますので、総合的な観点から、どのように整理していくか、今年、教育委員会事務局で方向性を示したいと思います。

また、教員免許更新制が解消されたことにより、研修を見直さなければならず、所

管に指示しているところです。

21世紀の課題研修に加え、現場研修や大学院での研修があり、若手を育成しようとしているものの、いずれの研修でも参加者は36から39歳までの3歳の幅に固まってしまっている現状があります。

今回の教員免許更新制の解消によって、校長がマネジメントして、研修を先生方に受けさせる形にしましたが、教育委員会事務局で改めて検討したいと思います。

竹田委員

柱の6番目、個別支援が必要な児童生徒のサポートについて、不登校やいじめ等の問題の他、要保護児童や児童虐待の問題がありますが、これは教育だけの問題ではなく、福祉も絡んでくるものです。ますます市長部局との連携が必要になっていると思われま

す。また、今回の教育大綱において、環境教育の推進が新たに加わりましたが、教育委員会と環境局などの市長部局とのさらなる連携をぜひお願いしたいと思います。

神谷市長

ICT教育について、先にハードが整備され、それからどう使っていくかという検討が進み、この1・2年で、ICTに対する意識が児童生徒も教職員も一般的なものになってきましたが、担当する先生や学校によって、その扱いに差が出ているという話を聞きます。

ある程度はやむを得ませんが、今後、個別最適な学習を推進していくためには、学校や先生を問わず、一定の教育として提供していかなければならないと考えます。そのために、さらなる教育方法の研究が必要になります。教科ごとにICTを利用するに当たってのポイントを、各学校に十分周知し、一般化をぜひ進めていただきたいと思

います。また、ICTは、感染症拡大期の学習機会の確保で大きな力を発揮したわけですが、学校によって、その対応が異なっているという議論もありましたので、これらの取組みを総括し、学習機会の確保をお願いしたいと思

います。また、ハード整備の中でネットワーク環境の見直しが必要だという意見もあります。例えば大規模校で児童生徒が一斉にインターネットを使うと、通信が止まるというような、施設面での限界があると聞いています。学校の規模によって、状況は異なるため、また、ベースとなる部分でもありますので、必要な見直しは追加工事等で対応していかなければいけないと感じています。

また、不登校児童生徒の対策は、今年からの不登校対策パッケージを教育委員会事務局に立案してもらい、非常に意欲的な内容になっています。

小学4年生以上で、不登校気味の児童が増えていると聞いていますが、小学生に寄り添った対応をしていただき、その成果を見て、必要な改善、さらなる取組みをお願い

します。また、小学生の英語教育について、これまで以上に重要な分野であり、全ての先生が英語を扱うこともあると聞いています。

専科教員等の支援体制にどう取り組むか、小学校の先生が児童生徒に向き合う時間を確保できるように、英語の支援体制もしっかり見ていくべきです。

その他、医療的ケア児の体制をしっかりと維持していくことができるかについて、懸念しています。

今の学校、子どもルーム、保育園、市の担当部署で別々に看護師を確保しているの

が実態ですが、採用される看護師からすると、勤務環境に偏りが出ており、応募しにくいと思われます。

担当部署に関係なく横断的に看護師を確保したり、病院局と連携し、看護師を活用したり、継続的に看護師を確保し、経験値を積めるようにしたいと思います。

こども未来局では、訪問看護ステーションと継続的な契約をしていますが、教育委員会では、個別に契約を結んでいると聞いています。

確実にこれから増えていく分野ですので、持続可能な体制について、部局横断的に検討しないとイケません。

それでは、様々な意見をいただいたので、今後の計画のさらなる検討、十分に踏まえたものにしていただきたいと思います。

(3) 第6次千葉市生涯学習推進計画について

(説明要旨)

宮本教育次長

計画では、施策展開の方向性を「学習活動のきっかけと場づくり」、「多様な学習機会の充実」、「学習を生かした活力あるコミュニティづくり」の3つに分けたうえで、7つの基本施策を設定し、具体的な取組みに繋がります。

このうち、基本施策(5)の現代的課題に対応する学習機会の提供について、急速に変化する社会において、新たな時代の課題に対応することが急務であるため、今回の計画において、新たに追加しました。

各基本施策における主な取組みのうち、前回の会議で意見をいただいた点についてですが、公民館等におけるICT活用については、コロナ禍等も踏まえ、対面だけではない新たなアプローチとして、オンライン講座の充実に取り組みます。

リカレント教育の推進については、市としてのリカレント教育の方向性、企業や高等教育機関等との協力体制の構築や強化等について、総合政策局や経済農政局との連携が特に重要と考えています。

公民館における相談体制の整備については、地域における新たな公民館の役割として、市民の皆様の気軽な相談窓口となるように取り組んでいきます。

今後のスケジュールは、学校教育推進計画と同様であり、計画の完成及び公表は来年1月を予定しています。

(質疑応答)

藤川委員

生涯学習の推進は、市の様々な施策や福祉、コミュニティづくり等に大きく関わっています。

インターネット社会が進み、必ずしも公的なプログラムで、社会教育活動を学ぶ必要はなく、様々な学習機会がありますので、公的な生涯学習や社会教育プログラムについて、時代に合わせた検討が必要です。

ここに挙げている施策の課題、例えばSDGsの推進、地域のボランティアの育成、コミュニティでの繋がり、孤立を防ぐといったことは教育学習だけではなく、市政全体に関わる課題であると考えられます。

ぜひこの生涯学習の取組みを、市長部局の他の政策ともしっかりと関連づけを行い、必要な点や強化すべき点があれば議論し、充実を図っていただきたいと思います。

神谷市長

学習環境の整備において、Wi-Fi環境の整備とありますが、これは手法であり、重要なのは何をするかです。

生涯学習全般において、公民館や図書館でどういったことをしていくのか、市が進める施策と連携をどう図っていくのか、極めて重要な話です。

市長部局と教育委員会とで全く同じ方向性だと感じましたので、議論を深めていきたいと思います。

大山委員

公民館で活動している方々が、一番求めていることは、学習成果を発表する場です。市や地区において、文化的な催しやスポーツ的な催しを行うときに、発表の場をもっと与えてほしいと思います。

今回のアンケートにおける情報発信の項目では、どちらとも言えないという回答がすごく多い結果になりました。市からの情報発信をお願いします。

神谷市長

実態を確認し、市民局の連携を考えていきたいと思います。

電子書籍の拡充とあり、図書館に来なくても図書館の貸し借りを行えるようにするという観点で書かれていますが、図書館の基本的な機能は、本を貸すだけではありません。レファレンス機能や様々な人に対して社会の動向を伝え、共有し、深めていく機能がありますので、電子書籍の拡充に合わせ、図書館機能そのものをどのようにデジタル化していくのかを考えてほしいと思います。

特にレファレンスサービスは、発展の余地があり、市の進める施策やリカレント教育にも繋がる取り組みですので、千葉市の図書館の将来像について、どんな取り組みが必要なのか、デジタル化を進めるべきかという議論が必要だと感じました。

公民館もデジタル化の環境は必要ですが、これまで公民館での活動を通じて培われてきたソーシャルキャピタルをもっと活用できないかという意見があります。

どこに福祉の相談をしていいかわからないといった意見が寄せられていますが、多くの人が集まり、地域交流の拠点になっている公民館がそういった意見に対し、一定の役割を果たせるのではないかと考えます。

公民館における相談体制の整備について、どういう人材がどういう役割を果たすべきか議論を深めていただきたいと思います。

また、郷土歴史の教育について、この計画の期間中に千葉開府900年という極めて大事な時期がやってきます。

教育大綱にも記載していますが、これまでの郷土の歴史、知識の蓄積を郷土博物館で改めて感じることが出来るように、郷土博物館から出すメッセージについて、これを機に見直していただきたいと思います。

今期の大河ドラマでは、千葉常胤が登場しています。市内での千葉氏への関心も非常に高まっています。

千葉開府900年へ向け、郷土博物館の機能、メッセージ、これまでの研究の蓄積をどう反映していくのか、改めて整理する時期です。

早い時期からしっかりと時間をかけて整理し、小中学校の中で郷土の歴史について、どのように取り扱っていくのか検討していく必要があります。

千葉開府900年に向け、研究、議論をぜひ深めていただきたいと思います。

また、キャリア教育とリカレント教育の推進と並んで書いてありますが、キャリア教育は比較的、若い年齢層向けですが、人生100年時代になると、一つの会社に勤

め上げることが、むしろ例外的になっていくので、生涯を通じたキャリア教育というものが、リカレント教育に近づくところもあると思われます。

幸いにも千葉市には高等教育機関が多数ありますので、キャリア教育とリカレント教育をどのように展開していくのか、人生の節目で役に立つ生涯教育体系を構築することが出来ると思われま

藤川委員

公民館でのソーシャルキャピタルの活用について、区役所とは違う役割が公民館には期待されると思います。公民館なので、基本は学習だと思いますが、例えば病院や福祉関係の機関と繋がりながら、学びの場に参加しつつも療養や福祉サービスを受けることができることを想定しているということでしょうか。

神谷市長

一つは地域の問題を早期に発見する場所だということです。

また、支援制度の発信など、公民館がどんな役割を期待されているか整理していかないといけません。市民一人一人がそれぞれ異なる期待を持っていると思います。市議会においても、様々な観点から意見をもらっています。

公民館は区役所以上にきめ細かい拠点であり、それぞれ公的な施設として、役割を果たすことができないかという取組みだと思っています。

まさにこれから具体化していくべき課題です。

磯野教育長

本日、いろいろな面で意見をいただきました。これらは推進計画だけでなく、実施計画にもかなり盛り込むものです。

様々な事業において、予算が伴うものが出てくると思うので、引き続き、協力し合っ

神谷市長

本日、議論した二つの計画とも、これから千葉市の教育をさらに推進していくための基本となるものであり、極めて重要な計画だと考えています。

本日の様々な意見を踏まえて、検討を進めていただきたいと思います。

7 照会先

- ・ 会議の運営等について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043-245-5057

- ・ 議題について

教育委員会事務局教育総務部総務課

TEL 043-245-5902